

松田

D 張

西神ニュータウン隣接農村・櫛谷地区の川祭り（まちづくり交流）にみる地域活性化の評価に関する考察

本論文は櫛谷地区の川祭りをもとに西神ニュータウンと隣接農村の交流による地域活性化を論じるものである。都市農村交流による農村地域の活性化に関する論文はたくさんありますが、その場合、農村地域で行う交流によるものがほとんどで、このように二つの地域を挟んだ川を中心に行う事例はほとんどないと思われます。このような見解からみると、農村地域における活性化を評価する経済・社会的な側面からの指標がどのように図られるか、両地域の活性化を言いたいかなど、はっきりしてないですが、今後の都市農村交流・共生を視点とした論文として注目する価値があるような事例であると思います。

M2 國居

川を媒介にした農村と都会の交流の成功事例として、興味を持って聞いていました。お客さんとして都市住民が訪れるイメージが強い都市農村交流に、農村と都市双方の自治会が協力してイベントを創造し、しかも毎年進化している点ですごいソフトが潜む事例だと感じました。

- ・先生方からも指摘があったように、地図をもっと活かした図表を作成してほしい。図1では道情報のみなので「自然環境」が一切読み取れないのが残念。櫛谷町がどの範囲かも不明。
- ・これから卒計を進める際には、地形、特に山—集落—川といった広域の起伏ある断面の魅力もしっかり読み込んでほしいと思った。
- ・資料から得た情報と松田が自分の足で稼いだ一次データが等価に扱われているので読んでいて混乱するし、もったいないと思った。資料から得た情報／ヒアリングから得た情報／自分の意見 が明確になるよう注意して整理してほしい。
- ・背景からは「山や川などの自然環境」と「神社の様な文化的な環境」の2本柱に感じてしまうので、後者は特に取り上げないのなら書かない方が良いのではないかと感じた。
- ・櫛谷川まつりの運営団体がうまくいっている秘訣(行政支援の具合とか)をもう少し知りたいと感じた。愛護会／自治会／行政／櫛谷町民／ニュータウン住民等の関係を示した図があるとわかりやすい。

M1 中桐

■研究により得られたこと、その意義

都市農村交流を積極的に行っている神戸市西区において櫛谷川祭りを中心にニュータウンと農村の人々がどのような接点を持ち、交わっているかについて櫛谷川祭りの実態をヒアリングによって、出来た経緯・運営団体・祭り準備の動き・当日プログラムなどから明らかにしている。また川祭りからの波及構造、経緯について図化することによって示されている。さらに、これからの展望・問題点もまとめられている。

■感想

- ・祭りの実態が分かりやすくまとめられている
- ・櫛谷川祭りを支えている主要人物に対するヒアリングを抑えており、川祭りの実態を多角的に調査出来ていると思われる→ただ、ヒアリング調査時のスケジュールなどの情報も入れておくべき(いつ、どこで、どのくらいの時間、回数)
- ・櫛谷川祭りを中心に個人レベルまでの交流につながっている実態で運営団体などでの交流の実態の図が欲しい、具体例など
- ・櫛谷町の各々の地区同士の関わり、各地区でのイベントを把握したいー福谷の位置づけ、など具体的に
- ・最後の図ーやってきたことは分かりやすいが櫛谷町と福谷地区、西神ニュータウンのフィールドの関係が反映されているような図にすれば集落⇔ニュータウンの交流の関係、また団体同士の交流→個人レベルでの交流という様子も分かりやすかったのでは。
- ・地図上でのニュータウン、農村部の位置関係が分かるような図は必要。
- ・何が最後に言いたかったのか少しぼやけている印象を持ったー波及していった構造を明らかにしたかったのでは、と思うので相互関係についてももう少し突っ込んだ調査と知見が必要では。

M1 朴

*コメント

- ・空間情報を把握した図が必要(西神中央や櫛谷川など)、図1が見えない
- ・3章、4章の中で自分が書いた文章なのか、それともヒアリング内容なのか、ヒアリングならだれに聞いたのかをまとめる必要がある
- ・また、それらを通して何を分かったのか
- ・1.2 研究の方法をもっと具体的に書く必要があると思う(どのような資料を収集したのか)
- ・卒業設計と小論文をつないでやることは意味があると思う(敷地を読み取る力と関心)
- ・図や表に出典を書くこと(どこから収集して、他の人も探せるように伝えるべきである)
- ・図は下、表は上に文字を書くのが基本
- ・実態を明らかにしたという言葉はあまり使わない